

法律相談は12月18日(土)午後1時からです

希望する方は、12月11日までに、町文化会館へ申し込んでください

人は、自分の力を十分に出して生き生きとしています。つまり「生き生き」として生きています。「生き生き」ともつていて、ときに自分の存在感があり、これが喜びになっています。

どのような「生きがい」をもち、

どのように社会の中で生きようとするか、この方向づけをすることが進路選択といえるのではないであります。

ですから、親や先生が「このよう

にしてみたら」と必要に応じて子

どもに助言することは必要なのです

が、「こうしなさい」と親が子ども

の将来を決めてしまつては本当の

進路選択にはなりません。

やがて一人立ちは、自分の進路を

自分で切り開いてもらいたいも

のです。

そのため、子どもが自分の将来

に希望をもち、将来の生き方を考え、

自分の意志で進路選択ができるよう

に、ふだんからよりよい情報提供者

になることが大人の大切な役割です。

最近は、小学校低学年の児童にも

学習塾から勧説のパンフレットが送られてくるそうです。親としては、我が子も塾に行かせなければ…というあせりの気持ちをもつようです。そして子どもに将来のことを十分に考へることを求めないで塾へと駆り立ててしまうことも



あるでしょう。

しかし、これから社会、学歴だけが価値あるものとして通用していくのでしょうか。

多くの企業では、すでに、学歴よ

りも能力や意欲を重視しているよう

です。

見て具体的な言動の中から長所をあげ、それに気づかせることが大切です。自己を知ることが進路選択に極めて重要な要素になるはずです。親も子も高校は出ていた方がいいと長所を更に伸ばし、能力を社会に生かすような方向づけを子ども自身でできるようになります。

小学生時代の夢がどんどん現実味を帯び、子どもの将来の希望へつながっていき、やがて子どもの心の中に「人生の目標」が育っていくで

しょう。

中学校卒業時には、高校や高等専

門学校、専修学校へと進学、家事從

事、就職、職業訓練校での専門的訓

練等、進路選択の幅が増えます。

子どもの進路指導は小学校でも行

っていますが、中学校では入学と同

時に始まります。

しかし、具体的・本格的な進路の

選択指導は、たいていは、三年に進

級してから行われます。

参考までに

高校中途退学者 全国で年間12万人

千葉県では4000人強

定員360名～400名として高校

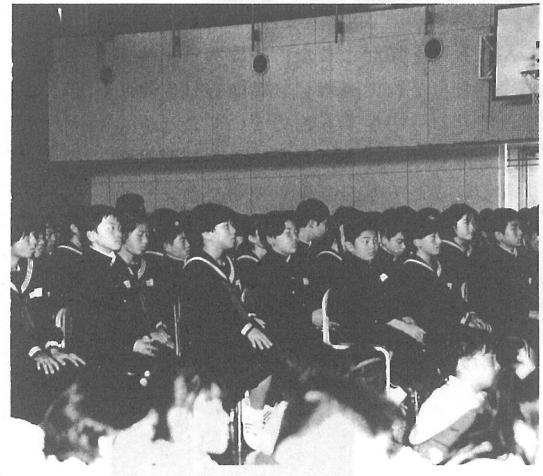
を三校以上廃校していることになる。

進路選択の誤りである。

参考までに
高校中途退学者 全国で年間12万人
千葉県では4000人強
定員360名～400名として高校
を三校以上廃校していることになる。
進路選択の誤りである。

参考までに

社会教育指導員・宇野克彰



中学卒業生の進路は、ここ数年約

94%が高校や高等専門学校への進学

者で就職者はだんだん減っています。

親も子も高校は出ていた方がいいと

いう考え方方がごく一般的になりつつあります。

しかし、子どもが希望する進路に

とつて高校へ行くことが本当に道を開くことになるのかを見直すことを含めて、目的意識をもつて高校へ進

学できるよう子どもを助けてやることが必要のように思います。

親は子どもが自分の人生を自ら切り開いていく姿勢を高く評価する態度で、子どもの進路選択の援助をして欲しいものです。

親は子どもが自分の人生を自ら切り開いていく姿勢を高く評価する態度で、子どもの進路選択の援助をして欲しいものです。